



手話を交えて合唱する
蓮池小学校の児童
(防災自治研全体会)

- ① 地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう 支え合う心と 明日への 希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように
- ② 地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう やさしい春の光のような 未来を夢み
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように

しあわせ運べるように



県立文化体育館に子供たちの澄んだ歌声が流れた。長田区蓮池小学校六年生による合唱だ。手話をしながら二曲を発表してくれた。そのうちの一曲、『しあわせ運べるように』は、臼井真先生が、生まれ育った神戸が元気に甦るようにと創られたものだ。

人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-3
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集/山西・小寺・大瀧・武川

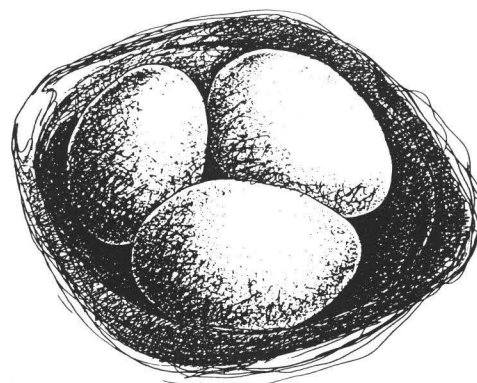
第53号

もくじ

- ① しあわせ運べるように
- ② 防災自治研集会開かれる
- ③ 長田橋再建(新湊川)
- ④ 交流しています他

震災当時長田区に在籍して

福島 美奈



震災が発生した時、私はとっさに食器棚を押さえました。今、思い出したら笑ってしまいます。当時、一年目で何とか仕事も少しづつ覚え慣れかけてきた頃でした。震災当日、私の自宅が大阪であったこともあり、私は出勤することができませんでした。その後電車が少し動き出したのでJRの甲子園口駅から長田区まで七、八時間かかって歩いて来たのを覚えていますが、どこをどう歩いて来たかはあまりよく覚えていま

せん。今歩けと言われたら歩けるかどうかは自信がありません。その途中でボランティアの人からもらったおにぎりをだれが作ったものかなど考えることなく口にしたことを覚えています。今の状態ならきつと考えてしまうでしょうね。

市民課はこの震災の罹災証明発行業務を担当していました。私もその担当者の一員として働くことになりました。全国から自治労などの組合を通じて応援に来てくださった他都市の職員の方々には大変感謝しています。また、その方々に仕事を手伝ってもらうために内容などを説明していくうちに「人にものを伝える難しさ」などを学ばせてもらいました。また、水道が出るようになり、みんなで大喜びしたことが特に印象に残っています。

昨年から震災資料室の手伝いをさせてもらうようになり色々なことをしていく上で吸収する事がたくさんあったと思います。これからは長田区で吸収した事をいかして頑張っていきたいと思っています。長い間ありがとうございました。

文流

先日、富田林市立寺池台小学校の前田朋美さんからお便りをいただきました。震災をテーマに五年生の調べ学習をまとめた文集と、担任の中條先生にあてたお母様からの手紙です。

「いろいろな資料、お手紙、ビデオを送ってくれてありがとうございます。おかげで言い文集ができました。資料の中で、今困っていることや、何人の人がなくなったか水道・ガス・電気のがわかりました。」

最初は何を書けばいいのかわからなかったけど、とてもいい参考になりました。

文集を送るので読んでください。」

五年二組 前田朋美

垂水区在住の嵯峨千久馬さんからカンパをいただきました。今後の活動に活用させていただきます。



震災資料室では震災資料の提供を呼びかけています。保存し、公開していきたいと考えています。

みなさまのご協力をお願いします。



<'01.4.22 写す>

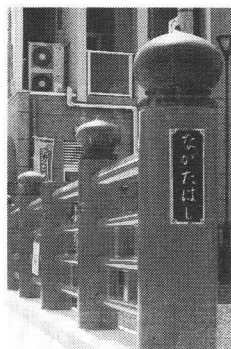
先の大震災で護岸が崩れるなど大きな被害が出た新湊川の会下山トンネルから長田橋を過ぎて荻藻川に合流する区間の改修工事が順調に進んでいる。

この度、新しい長田橋が完成し地元の人たちに喜ばれている。

この区間は明治三十四年に湊川の付替工事で川になった所で、房王寺橋、会陽歩道橋、室内橋、三六橋そして長田橋が架かっている。(現在の新湊川は兵庫区の天王谷川と石井川が合流する所から海までの区間を言うようになった)

新湊川を安全な親水河川に

長田橋が再建・山田稔さんに聞く



長田の歴史に
詳しい自治会長
の山田稔さん(

新しい長田橋は高欄に元の橋に付けられていた「ぎぼし」を使い、歩道はゆったりとした幅を取っている。

78才)にこの辺りのことを尋ねると「今の片山町は昔は増田山と呼ばれツツジの咲く山で岸本銀行(旧の神戸銀行の前身)の所有で麓は金楽寺の裏手まであった」と語ってくれた。この「長田橋」の東南角には長田神社のお祭りの日には大道芸人が店を並べ大変な賑わいであった所だったそう。

また、山田さんは「三六橋は源平の頃に敷かれた条理制の名残がついた橋の名で因みに金楽寺は二ノ坪にあたる」とのことだ。

さらにご自分の半生で昭和十三年(38年)七月の阪神大水害、三十六年(61年)六月四十二年(67年)七月の大水害を経験され



<'97.10.7 写す>

「長田橋が新しくなって、この新湊川が安全で地元の皆が親しめる川になって欲しい」と山田さんは願っている。

そして今回の阪神大震災で家が全壊し一年半にわたって西神仮設で生活をされた。この年代の人は殆どが兵役にも就いている。

自治労主催の安心・安全・共生の

『防災自治研集会』

開かれる!

この研究会は4月5日・6日に兵庫県立文化体育館にて兵庫県、神戸市、神戸新聞、サンテレビなどの後援のもとで開かれた。一日目は全体集会、二日目は分科会・フィードバックが行われた。この研究会には全国から約千人の自治労組合員が参加し、自治体職員の目から見た震災の課題をテーマとした。参加者は各地の被災地の事例を持ち寄り、自らの経験を元に意見などを発表した。

1日目の全体集会では、「災害から学ぶⅡ共生の街づくりⅡ」と題して、記念講演とパネル討論を中心とした。人材育成コンサルタントの辛淑玉さんは、外国人を例にあげ「防災にも多様化が必要である。」と訴えた。鳥取県佐伯町の職員は鳥取県西部地震の状況と教訓を報告した。その他、関西学院大学教授の大谷強さん、部落解放同盟兵庫連合会執行委員の杉岡康次郎さんも「共生の街づくり」をテーマに講演を



辛淑玉さん

行った。

全体集会の最後には長田区の蓮池小学校の6年生による「翼はとぶよ、どこまでも」と「しあわせはこべるように」の合唱が行われ、参加者からはたくさんの拍手が寄せられた。

2日目は5ヶ所で分科会が行われた。第1分科会は「医療・介護と防災対策」がテーマで西市民病院の被災状況と復興への取り組みを検証し、安全、安心な医療・介護体制づくりについて検証した。

第2分科会は「災害復興の都市計画・ま

ちづくり」をテーマに阪神淡路大震災からの復興のまちづくりを教訓に今後の都市計画のあり方を討議した。

第3分科会では、「避難生活の課題とあり方」をテーマとして、行政・地域・NPOが避難所・仮設住宅の生活における様々な問題や課題にどのように取り組んだのかなどを明らかにした。

第4分科会のテーマは「被災者の生活再建と地域の再生」で、被災者の住宅・生活支援のあり方、雇用の問題、地域の再生などの課題について現状と問題点を検討した。

第5分科会は「自治体の地域防災とコミュニティ」をテーマとし、大災害がどの自治体にも起こりうることを認識し、防災行政のレベルアップを目指してレポート発表や意見交換を行った。

また、相互支援活動に取り組む被災地障害者センター、トウモロ編集室と震災により壊滅状態であった地場産業(ケミカル・機械)の復興過程を背景に今後の自治体の果たすべき役割を探るフィードバックも行われた。